誰にでも優しいまちを目指す

NCGG-UniCoプロジェクト

プロジェクト背景と意義

国立長寿医療研究センター老年社会科学研究部
斎藤　民

本研究は長寿科学振興財団「令和5年度長生きを喜べる
長寿社会実現研究支援」の助成を得て実施しております。

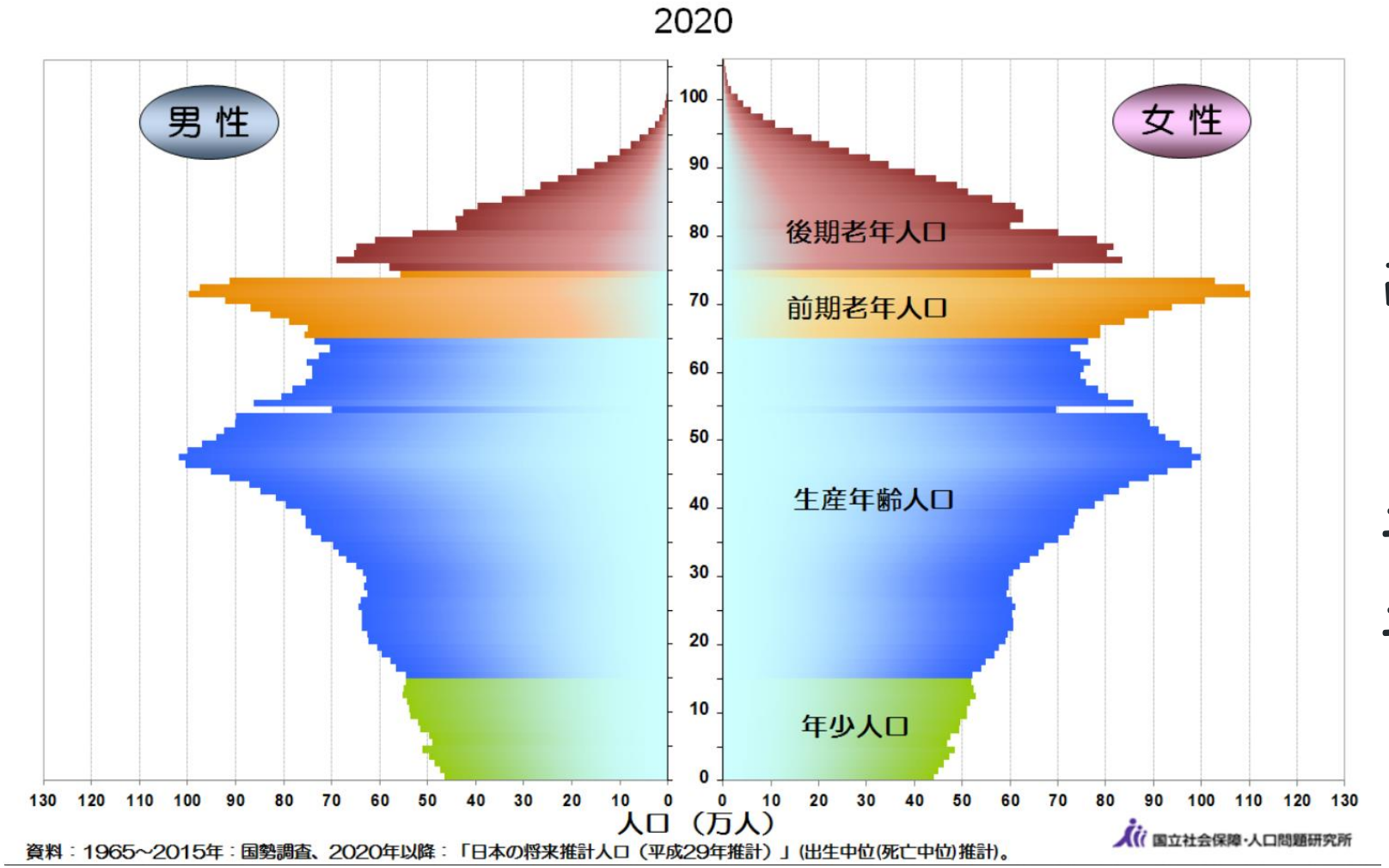
本研究に係る申告すべき利益相反はございません。

構成

- UniCoプロジェクトの背景
- UniCoプロジェクトの紹介
- コンソーシアム
- まとめ

UniCoプロジェクトの背景

超高齢社会日本のすがた



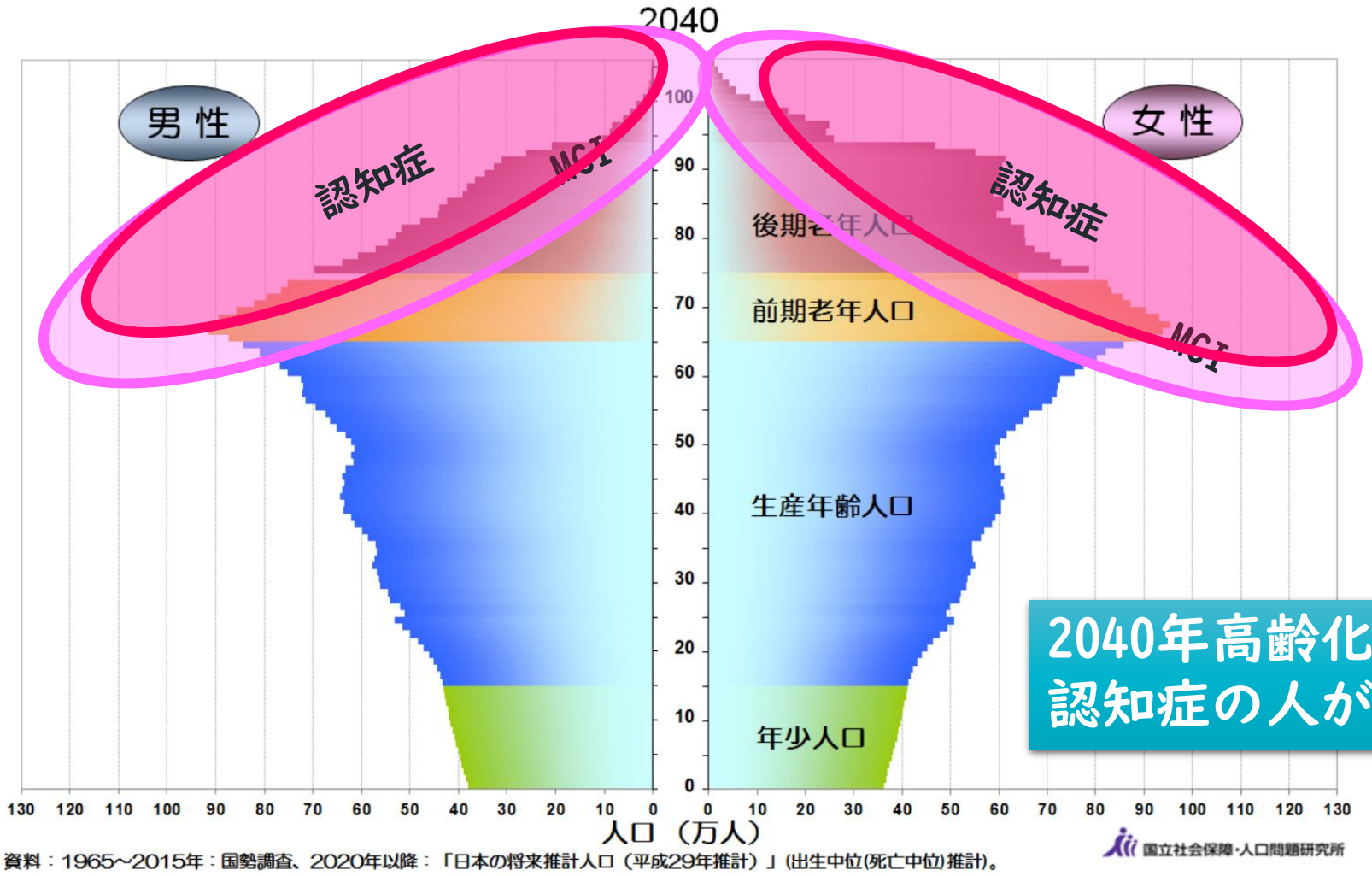
高齢化率（2021）： 29.1%

うち後期高齢：15.0%

（総務省推計）

平均寿命（2021男）： 81.6歳

平均寿命（2021女）： 87.7歳



2040年高齢化率推計35.4%
認知症の人が全人口の1割近くの可能性

認知症やさまざまな障害があっても

社会生活や経済生活を継続できる

社会でないと、成り立たないのでは？

ケアの受け手としてのみ捉える発想から、
社会がどう変われば活躍できるのかに転換

日本における共生社会づくりの成果

- 優れた人材育成・顧客サービス
- 世界に類をみない認知症
  サポーター約1500万人 ○

しかし人手不足が進み、人の努力では限界。ではどうしたら？

自然と行動できてしまうまち・ものへの転換

オランダのホグウェイ内のスーパー（c）VIVIUM ZORGGROPE/DE HOGEWEYK

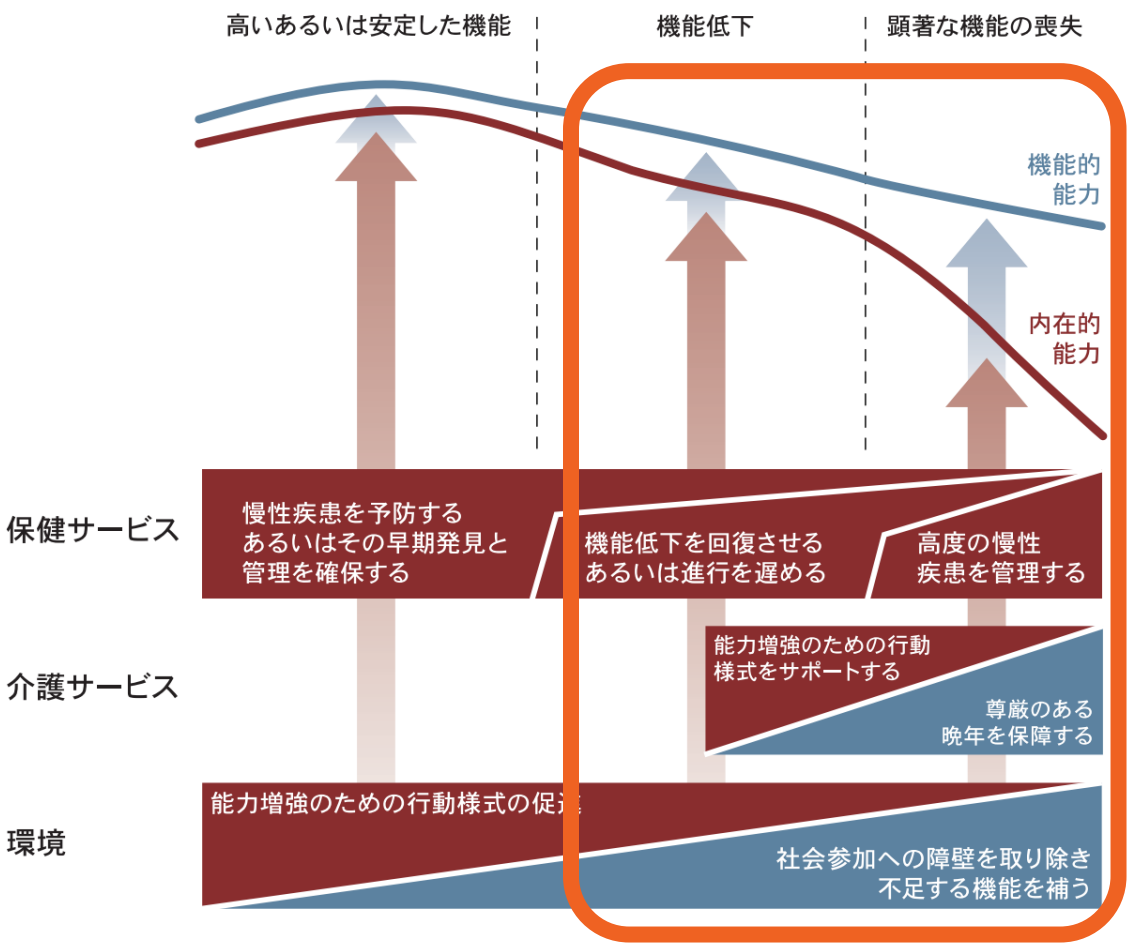
Designing for dementia.
認知症未来共創ハブ

3. 毎日数回行う「歯みがき」を、自分自身で行えるようにサポートする歯ブラシデザイン

左：2ウェイ・イージー・グリップ歯ブラシ
右：スーパーブラシ

(https://designing-for-dementia.jp/design/009_casestudy_health/)

環境と人の健康・行動



- 世界保健機関によるHealthy ageingのための公衆衛生モデル
- 心身の機能が低下するほど環境の役割が大きい

↓

認知症や障がいのある方に環境づくりが特に重要

認知機能低下にやさしい環境づくりは大きく遅れている

認知症フレンドリコミュニティの紹介（筑波大学）

認知症の人にやさしいまちづくりの10の評価項目

1）アート・スポーツ・レクリエーション
2）企業・商店
3）子ども、若者、学生
4）地域住民やボランティア
5）消防・救急・警察
6）医療福祉
7）住居
8）移動・交通
9）働く場づくり・社会への参画
10）認知症の人の声の反映

https://dac.tsukuba.ac.jp/100dfc/index.html

- 全国各自治体・コミュニティの先進的な取組みを紹介
- 活動、参加機会の提供、就労、人材育成、システム中心

ハコ、モノ、デザイン整備を推進する必要あり

大規模

安全でわかりやすい歩道

(https://dementia.ie/wp-content/uploads/2018/01/UD-DFH-Guidelines-2018-Full-doc-lw-res-compressed-A1.pdf)

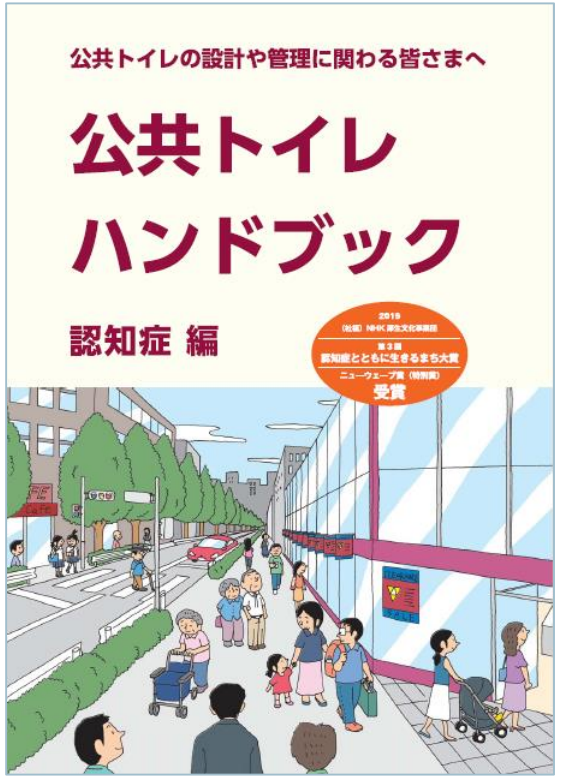
中小規模

認知症にやさしいデザイン（福岡市）

(https://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/74905/1/tebiki_JP.pdf?20231012175725)

中規模

認知症に優しいトイレ



(野口祐子編, 2018)

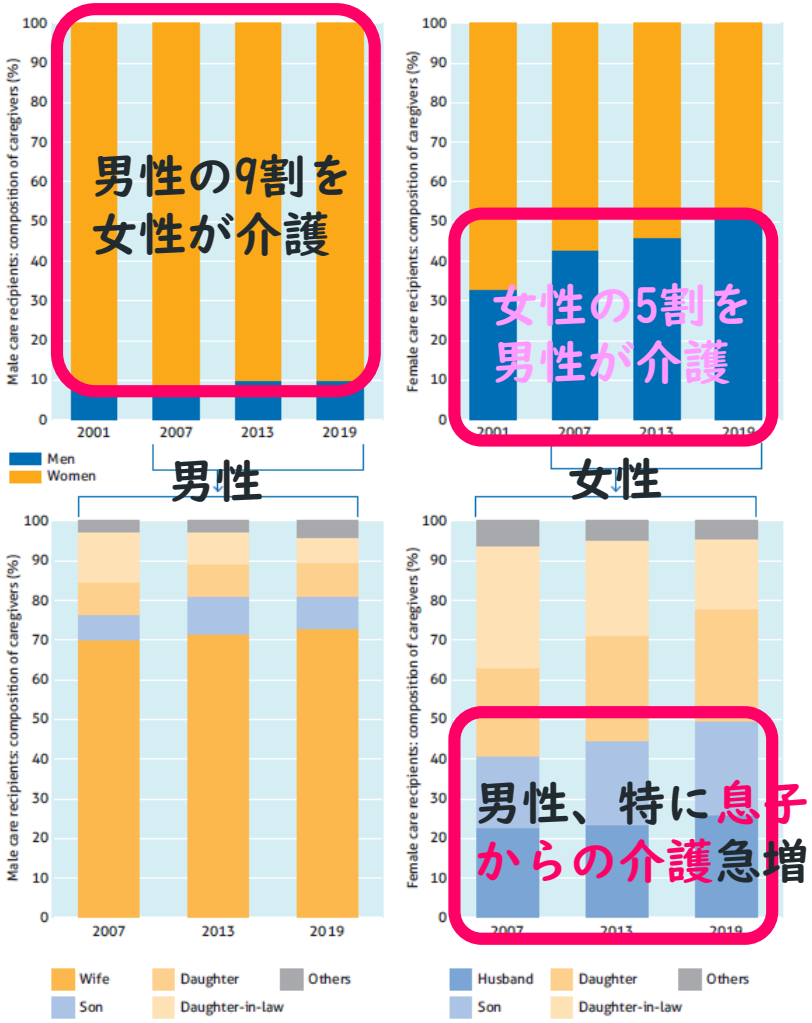
(https://newsroom.lixil.com/ja/20220511)

中規模

要介護高齢者の性別にみた介護者の性・続柄

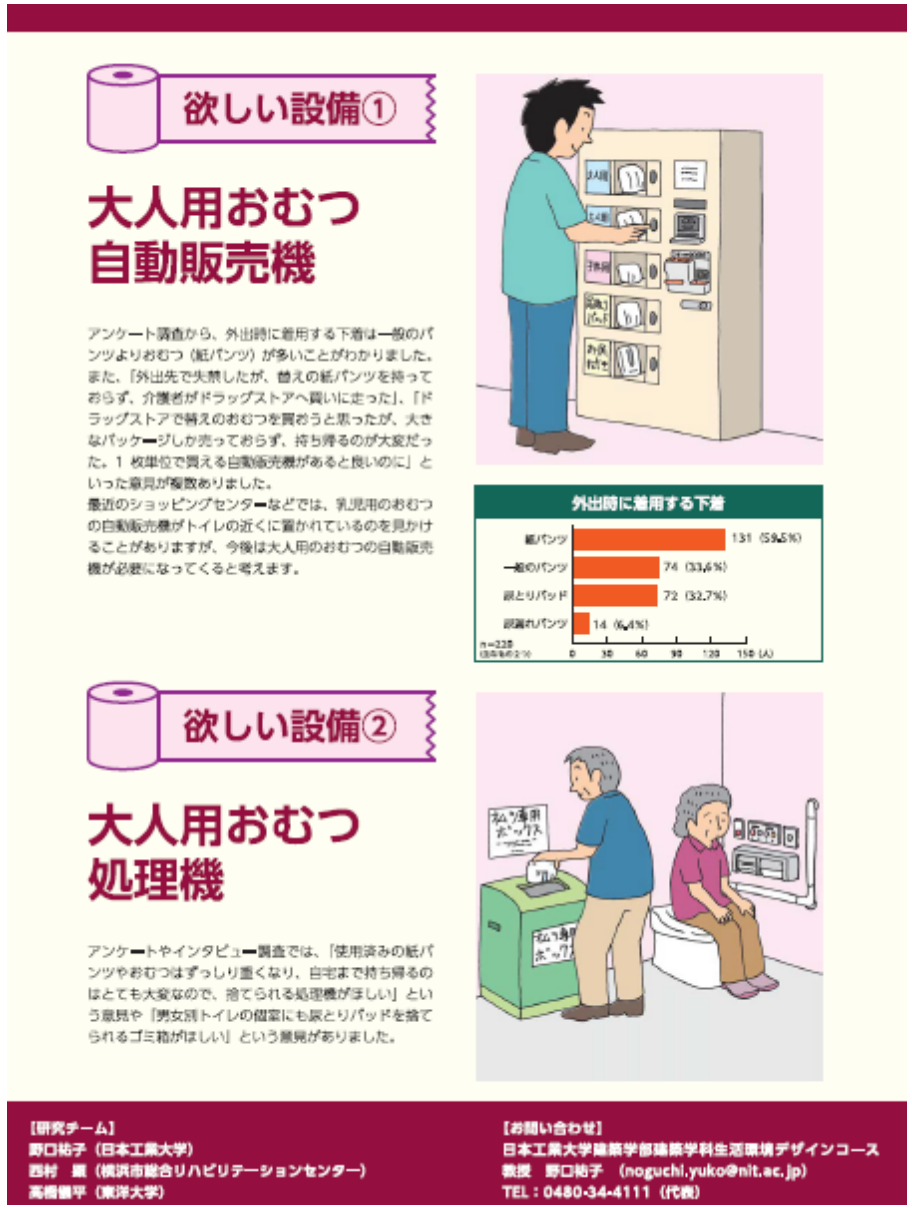
：異性介護が主流、今後ますます増加

Fig. 1.9. Changes in percentage of co-resident men and women family caregivers for older men and women needing LTC in Japan.



(Saito T, et al., 2023)

小規模


欲しい設備①

大人用おむつ
自動販売機

アンケート調査から、外出時に着用する下着は一般のパンツよりおむつ（紙パンツ）が多いことがわかりました。また、「外出先で失禁したが、替えの紙パンツを持っておらず、介護者がドラッグストアへ買いに走った」、「ドラッグストアで替えのおむつを買おうと思ったが、大きなパッケージしか売っておらず、持ち帰るのが大変だった。1 枚単位で買える自動販売機があると良いのに」といった意見が複数ありました。
最近のショッピングセンターなどでは、乳児用のおむつの自動販売機がトイレの近くに置かれているのを見かけることがありますが、今後は大人用のおむつの自動販売機が必要になってくると考えます。

外出時に着用する下着

紙パンツ	131 (59.5%)
一般のパンツ	74 (33.6%)
尿とりパッド	72 (32.7%)
尿漏れパンツ	14 (6.4%)

n=220
(当年齢の2%)
0 30 60 90 120 150 (人)

欲しい設備②

大人用おむつ
処理機

アンケートやインタビュー調査では、「使用済みの紙パンツやおむつはずっしり重くなり、自宅まで持ち帰るのはとても大変なので、捨てられる処理機がほしい」という意見や「男女別トイレの個室にも尿とりパッドを捨てられるゴミ箱がほしい」という意見がありました。

【研究チーム】
野口祐子（日本工業大学）
西村　薫（横浜市総合リハビリテーションセンター）
高橋儀平（東洋大学）

【お問い合わせ】
日本工業大学建築学部建築学科生活環境デザインコース
教授　野口祐子　(noguchi.yuko@nit.ac.jp)
TEL：0480-34-4111（代表）

- 大人用おむつ処理機はすでに開発
  - 容積が大きいため普及に課題も
- 外出におけるトイレニーズは大きい
- 普及すればインパクト大の可能性

小規模

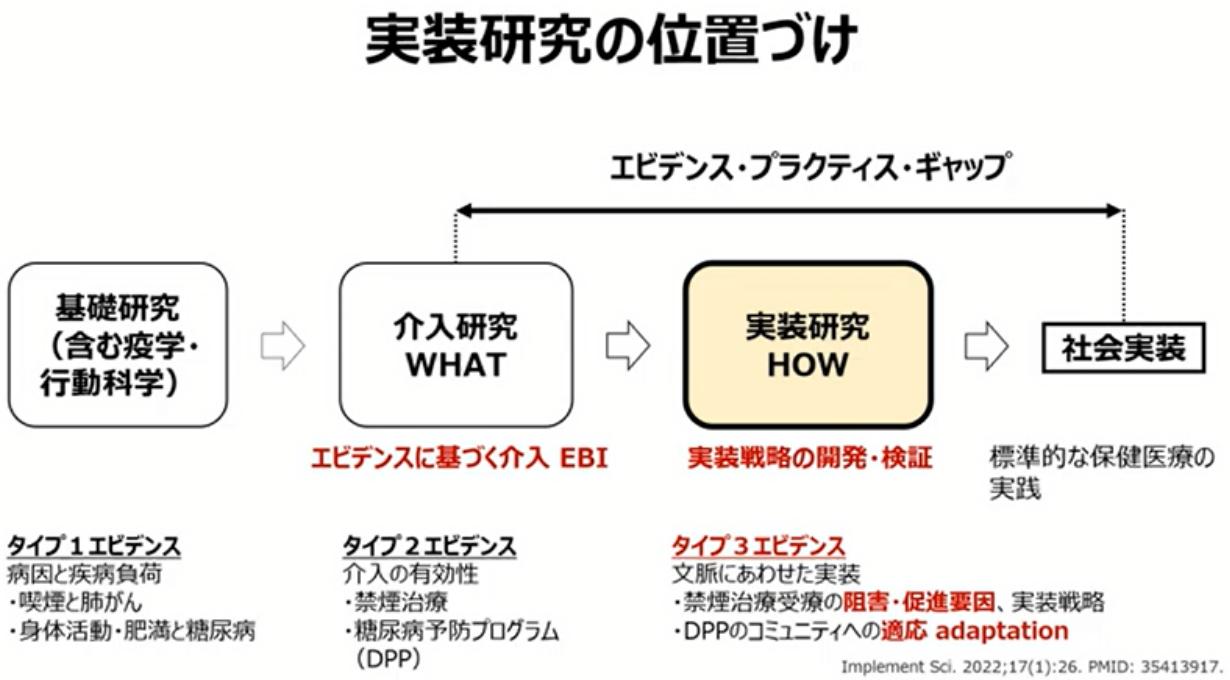
認知症にやさしい食器

(Eatwell, premium assistive tableware designed for independent eating (eatwellset.com)

実際に摂取量が増加との報告も

課題：科学的根拠と普及

- その成果物は、本当に役に立った／行動や意識を変えたのか？
- 政策・サービス実践や普及のうえでは、「きちんとした」根拠が必要



(https://www.radish-japan.org/)

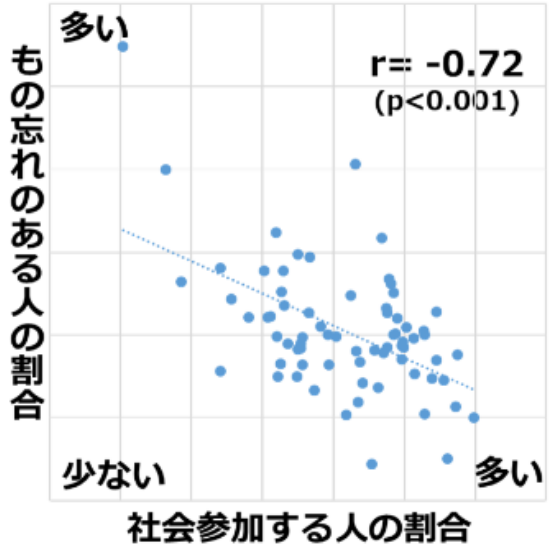
UniCoプロジェクトの紹介

社会参加がなぜ重要なのか？

- 社会参加は心身の健康や幸福感の向上に寄与
- 健康な人に留まらず**疾患や障害をもつ人にも重要**

社会参加する人が多いまちほど、もの忘れのある人の割合が低い

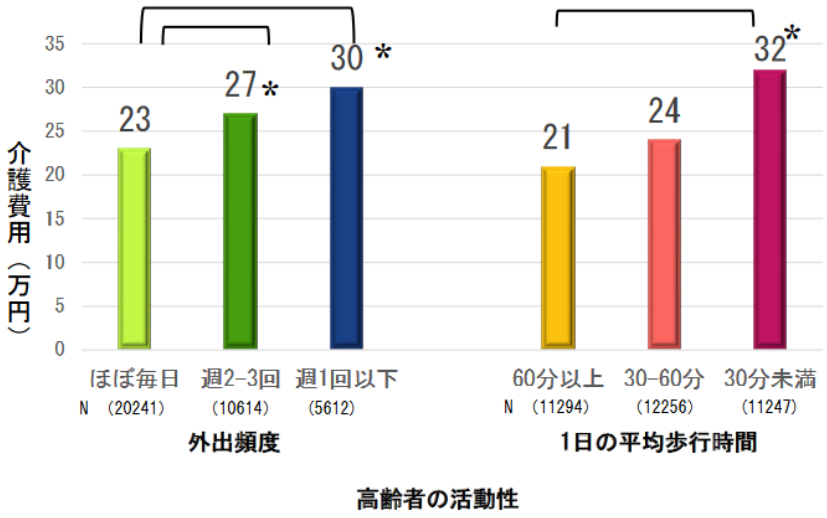
社会参加と「もの忘れ」の偏相関



（JAGES，鄭丞媛先生資料，2019）

活動性の低い高齢者の介護費用は高くなる

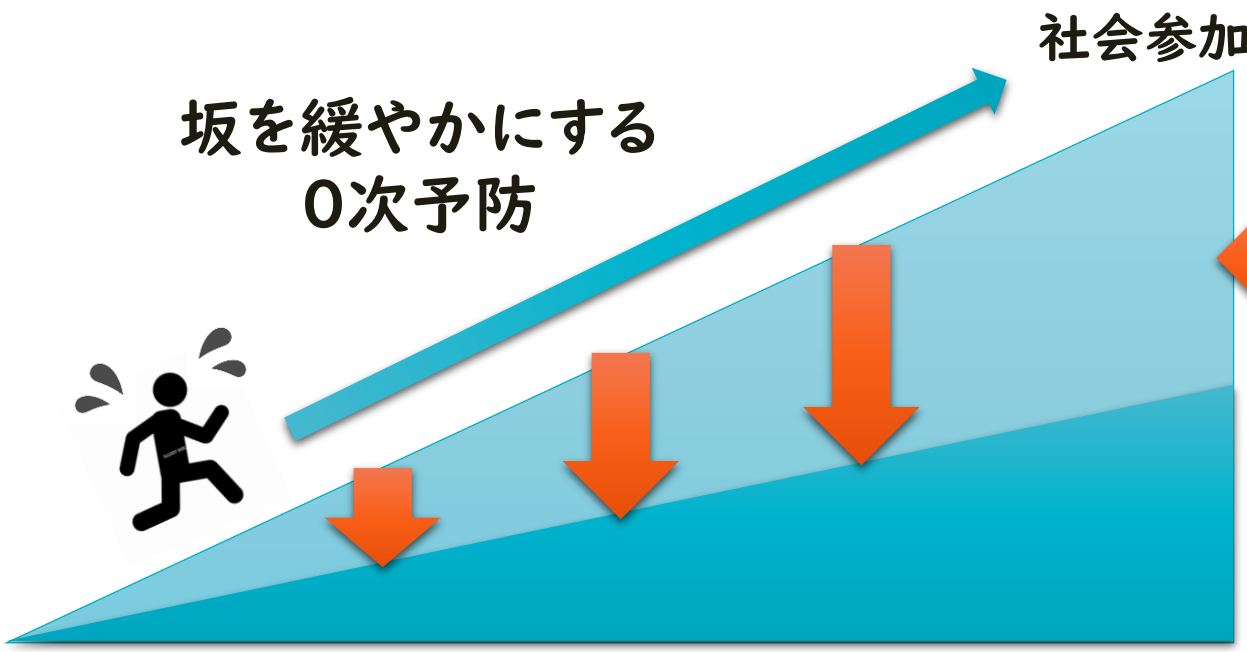
高齢者の活動性とその後の介護費用（59か月間）



（JAGES，平井寛先生資料，2021）

UniCoプロジェクトの基本コンセプト

すべての人に社会参加とウェルビーイングを



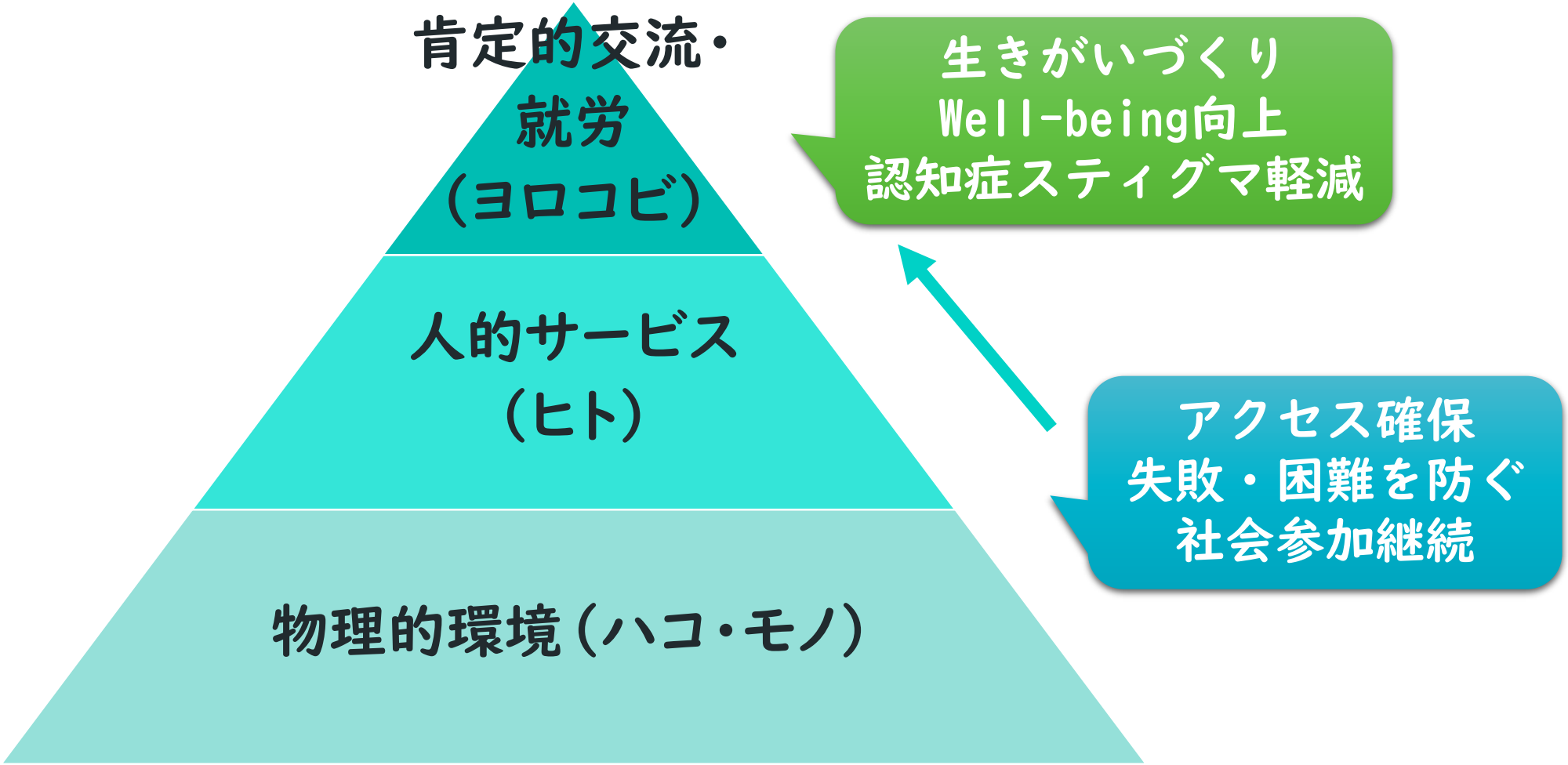
ユニバーサル・フレンドリ・ファシリティ
NCGG-UniCo

ヒト：人材育成

ハコ：施設環境

ヨロコビ：
肯定的交流促進、就労

社会参加とウェルビーイング向上をもたらす3つの要素



ヒト

ハコ・モノ

ヨロコビ

スローショッピング（マイヤスーパー様）

(https://www.maiya.co.jp/support2/)

「ヒト」＋「ハコ」＋「ヨロコビ」の複合サービス

ヨロコビ

就労

- 生きがいづくり
- 特に若年性認知症の方のニーズあり

https://www.kodamanotsudoi.com/2020/03/20/%E8%8B%A5%E5%B9%B4%E6%80%A7%E8%AA%8D%E7%9F%A5%E7%97%87-%E5%B0%B1%E5%8A%B4%E5%9E%8B%E3%83%87%E3%82%A4%E3%82%B5%E3%83%BC%E3%83%93%E3%82%B9-days-blg/

https://dac.tsukuba.ac.jp/100dfc/aichi-okazaki.html

ヨロコビ

認知症にやさしい観劇

2014年から認知症フレンドリーな舞台公演を続ける、英国北部の劇場「リーズ・プレイハウス」 ©Leeds Playhouse

2019年秋冬の認知症フレンドリー公演は「オズの魔法使い」 ©Leeds Playhouse

(https://designing-for-dementia.jp/design/006_casestudy_play/)

- 介護者の会の方からも今回「一緒にコンサートに行きたい」というコメントあり
- 芸術・文化活動はウェルビーイング向上と関連 (Noguchi, et al., Intl J Geriatr Psychiatr, 2022)

UniCoの強み

- 研究機関がデータに基づき効果を科学的に検証

- 認知症専門医やリハビリ職を含む多様な専門職チーム体制
  →医学的観点からも「認知機能低下に優しい」をチェック

- 当事者・ご家族の参画
  →当事者・ご家族との共同開発が可能に

- オレンジタウン構想の地、大府市・東浦町において協力体制を構築

認知症の人の外出の特徴が明らかに

- 認知症になると、どこにどう行けなくなる？
- 認知症になったとしても行き続けたい場所はどこ？

- 一般高齢者と軽度要介護認知症自立度低下者との比較調査
  - 要介護高齢者　　：2023年11月に知多北部で新規認定者全数調査実施
  - 健康高齢者　　：2023年12月に大府市で無作為抽出による調査実施
- 国内外でも貴重な知見

当事者や家族の「生の声」を集約

- 認知症の人と家族は実際に外出して何に困っている？
- 何があると助かる？

- まち歩き調査
  - たどり着いて、買って、食べて、何に困った？
  - ケーススタディ
  - イオンモール東浦様
  - JAあぐりタウン「げんきの郷」様 ご協力予定

(承諾を得て撮影)

(http://www.agritown.co.jp/hanamaru.php)

- 東浦町介護者の会アンケート
- 2023年11月
- 回答：8名
- 外出して困る先
- 不安内容・困ったこと
- 外出し続けたいところ

効果検証

- 2023～2024年度　試行によるユーザビリティ評価
  - 利用者（使用満足度、困難度、道迷い回数、購買意欲、等）
  - 社員等（対応回数・時間、満足度等）

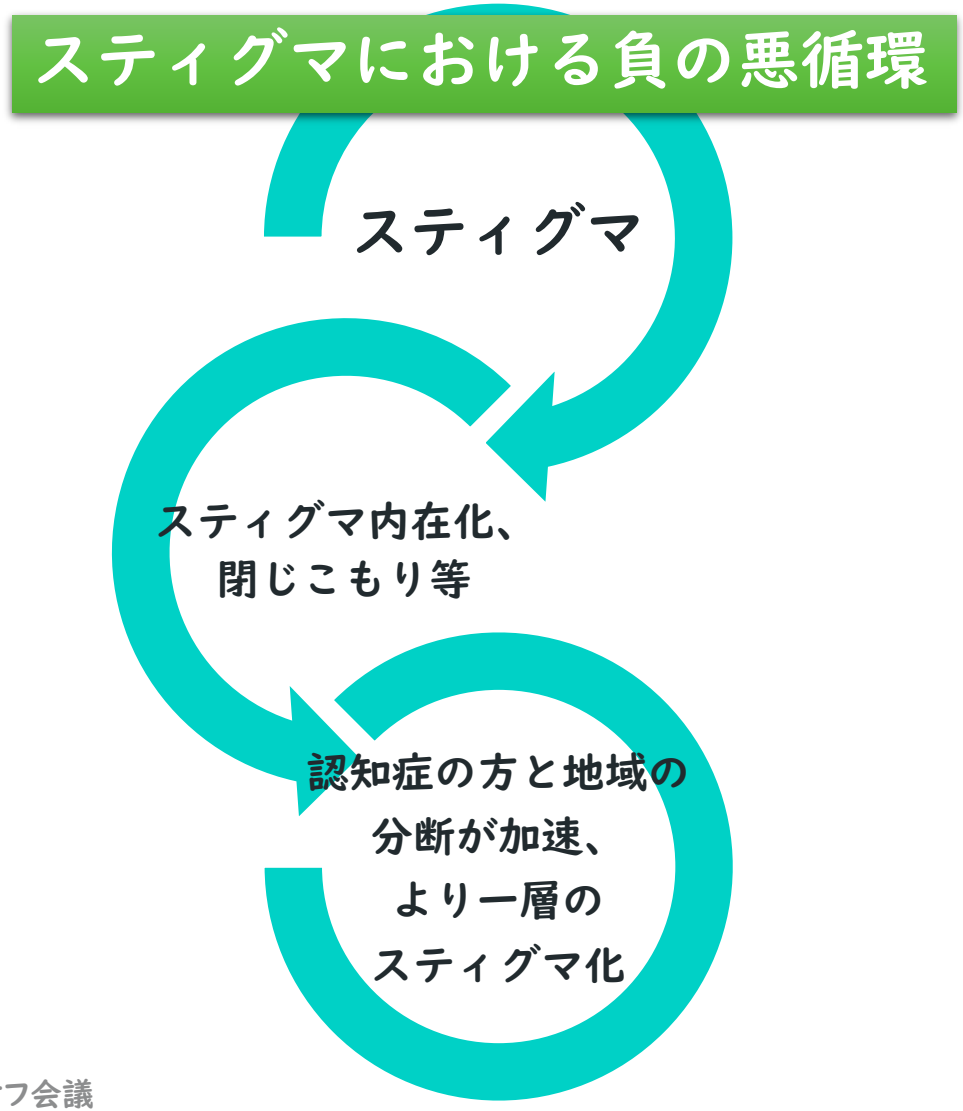
- 2025年度～　効果検証（クラスター無作為化比較試験等）
  - アウトカム
    - 社会生活機能、認知症スティグマ軽減（研究）
    - 地域の健康（ウェルビーイング）、医療介護費抑制（行政・住民）
    - 顧客満足度、利用者数、販売額等（産業）

UniCoの目指すアプローチ

- ユニバーサルであること
  - 認知症の人だけではなく、誰にでもやさしい
- Win-winであること
  - 利用者だけではなく、提供者（企業、行政）にもやさしい

社会参加を妨げる「スティグマ」軽減が重要

- 認知症スティグマは、認知症のある人に対する偏見・差別 (Goffman, 1963)
- 認知症スティグマによって、認知症の方やご家族が、参加を控えたり、助けを求めにくくなる (Nguyen, 2020)
- 認知症の問題ばかりがクローズアップされると、一層分断が加速、スティグマの悪化につながる



誰もが生き生き参加する社会がスティグマ軽減に有効な可能性

認知症スティグマを持ちにくい傾向

- 高齢女性
- 認知症の学習経験
- 認知症の人との活動経験

認知症スティグマを持ちやすい傾向

- 若年男性
- 社会参加少ない人
- 地域への信頼感が低い人

(Saito et al, Gerontol Geriatr Intl, 2023)

スティグマ軽減の方策

- 本人だけでなく皆が生き生き社会参加すること
- 生き生きしている姿をみること(フレーム効果)(Cuadrado et al., PloS One, 2022)
- 認知症の人を感情や個性をもつ人として接する経験

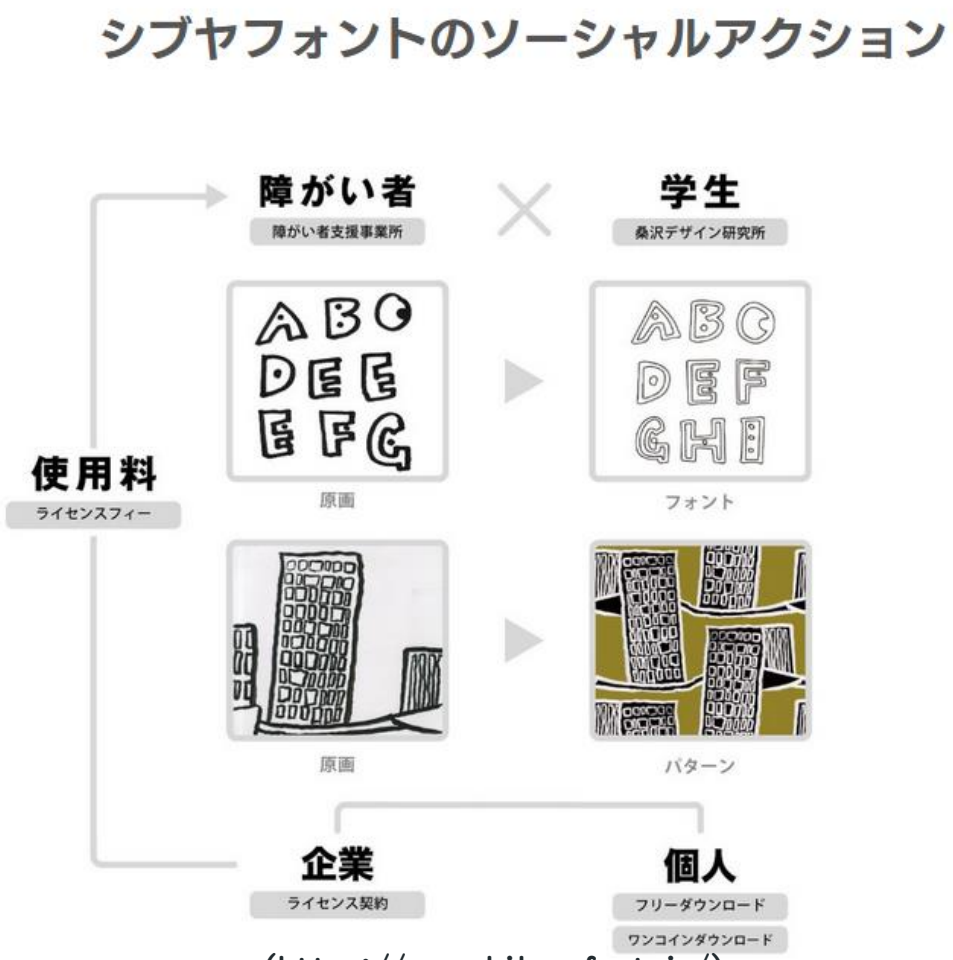
利用者と提供者のwin-win志向が重要

- 企業の強みであること（≠持ち出し、社会貢献）
  - これまで顧客になれなかった層の新規獲得、離脱抑制

- 認知症施策を超えて共生社会へ
  - 異なる集団（子ども、その他）のニーズとの整合性も図る

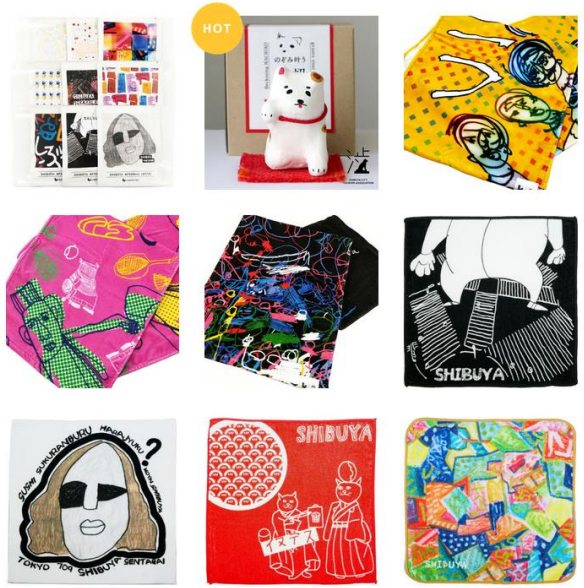
  →若い世代の顧客ニーズにも対応、認知症理解促進にも有効か

社会貢献は「付加価値」に変えられる



(https://www.shibuyafont.jp/)

- 福祉作業所とデザイナーのコラボで商品化
- 使用者から得たライセンス料を工賃に還元
- 公共施設での採用、商品化



(https://shibuyafontec.stores.jp/?all_items=true)

産官学民協働の必要性

それぞれの
異なる強み

- 産（民間企業）：プロダクト開発、展開
- 官（行政）：施策立案・実施、データ保有
- 学（研究）：専門知見提供、効果検証
- 民（地域住民）：利用・支援・社会参加

誰にでも優しい施設開発は、支える基盤、作る人、使う人、品質保証する人がいてこそ成り立つ

私たちが目指す最終ゴール

- 誰もが社会参加できる
- ウェルビーイングが向上する
- 経済と両立できる

認証制度化

認証施設を優遇する
仕組みづくり

**多地域での
実装性検証**

地域・場面に応じた応用版開発
継続性等の検証（2028-）

UniCo施設検証

モデル施設検証
複数の共同研究実施（2025-2027）

**UniCo施設
試作**

現在（2023-2024）

スケジュール

Aステージ（2023.4～2025.3）

認知症者の外出行動検証

社会生活機能尺度開発

プログラム試作

Universal Friendly Facility介入予備実施

- 外出困難要素および当事者の求める外出先特徴の探索
  - レビュー・当事者インタビュー等
- 好事例収集（表示、施設、実践等）
- 認知症者の外出行動特性検証
  - 質問紙調査
    - 自立高齢者との比較検証
    - 家族・CM・地域住民の外出支援意識

- アウトカム指標開発
- 介入施設決定
- 介入内容検討

- 産官学民連携実施
- 社会実験（Ｉアーム）
- Usability評価
  - 認知症者、地域住民、社員

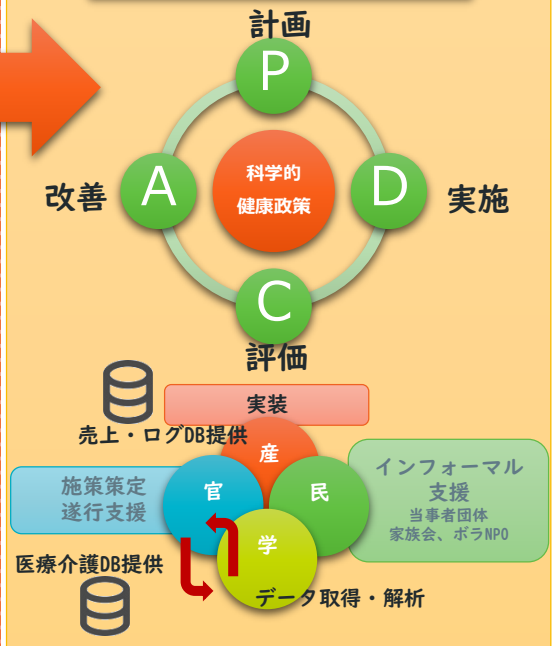
Bステージ（2025.4～2028.3）

Universal Friendly Facility介入効果検証

- 社会実験（クラスターRCT）
- 利用者および地域普及効果評価
- 経済評価（売上、介護DB）

Cステージ以降（ 2028.4～）

実装：多地域展開



コンソーシアム形成　　**共同研究開始**

UniCoコンソーシアムとは

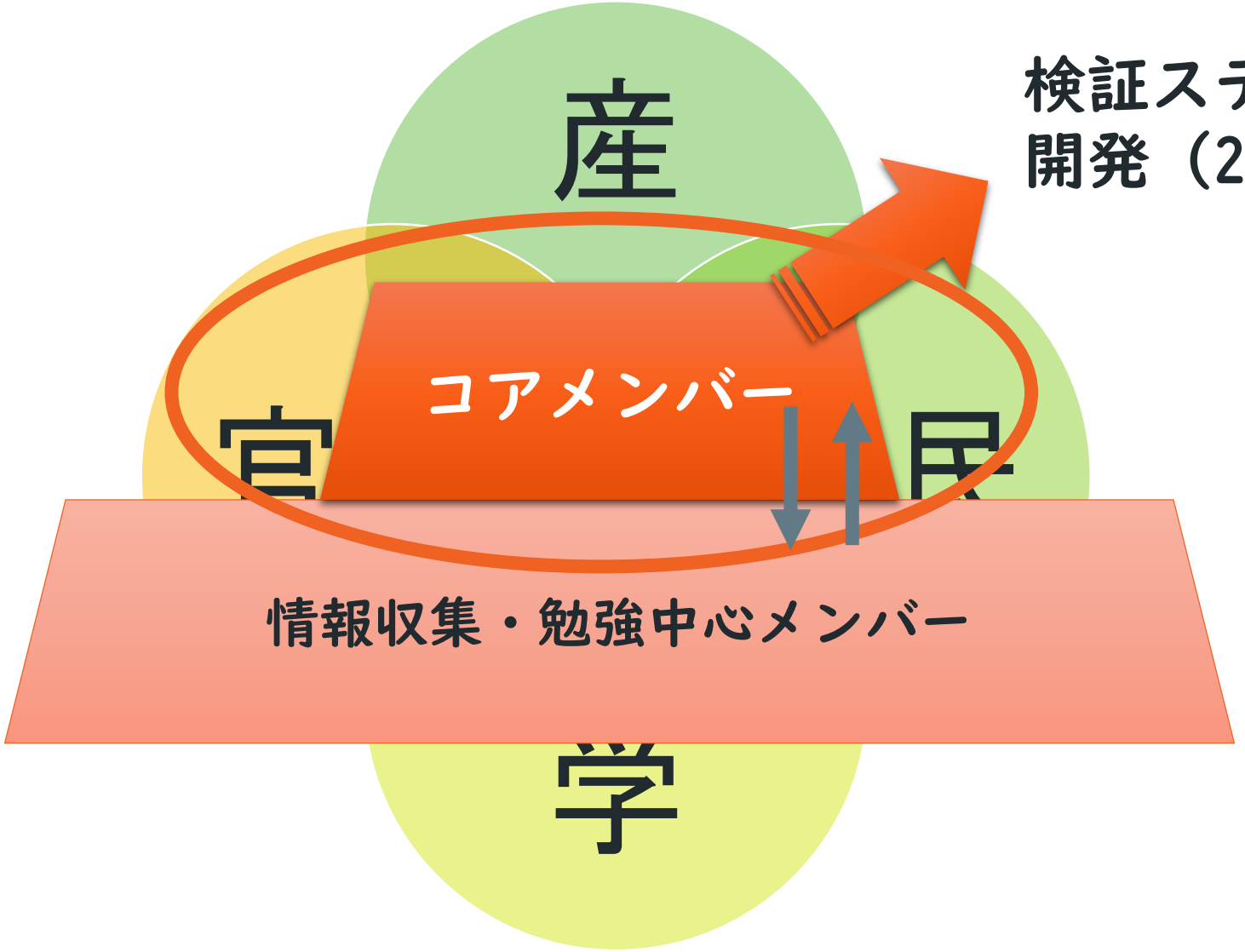
UniCoコンソーシアム

2023-2024　実質的にプレコンソーシアム（勉強会、ネットワーキング中心）
2025以降　コンソーシアム、契約、共同研究化（参加者マッチングを含む）

2023-2024（プレ）コンソーシアム

- 目標：
  - 誰にでも優しい施設づくりの進め方を理解する
  - 参加者間の協力体制構築
  - 共同研究の準備を行う（コアメンバー）
- 実施頻度：年3-4回
- 内容：勉強会および意見交換会が中心
- 参加資格：
  - UniCoに共感する民間企業、地域、行政関係者、研究者の方々
  - （可能な限り）コンソーシアムに出席できる方

（プレ）コンソーシアムの構成イメージ



検証ステージ・共同開発（2025～）へ

- 探索ステージの2023-2024は、2段階のメンバー構成
- コア⇔その他を移動可能

Take home message

- 超高齢化社会では、認知症等があっても社会経済生活できる環境づくりが重要
- 施設デザイン、人材育成、喜び（生きがい）の仕掛け→社会参加とウェルビーイング向上を目指す
- 「誰もが参加（ユニバーサル）」「提供者にもメリットのある（win-win)」アプローチ
- 産官学民の協力で初めて達成可能

コンソーシアム申込み方法・予定

参加資格

- UniCoに共感する民間企業、地域、行政関係者、研究者の方々
- （可能な限り）コンソーシアムに出席できる方

参加費：無料

問い合わせ先

- UniCo事務局
  国立長寿医療研究センター老年社会科学研究部内
  TEL：0562-46-2311(内線5032)
  火曜日～金曜日　8:30～15:30
  ss-applied@ncgg.go.jp

第2回コンソーシアムの予定

- 2023年3月22日（金）午後3時～5時(予定)
  - 開催形式：ハイブリッド(オンサイト・Zoom）を予定
    - オンサイト会場：国立長寿医療研究センター内
  - 内容：自己紹介、勉強会、意見交換会（予定）

以降、年3-4回の予定